



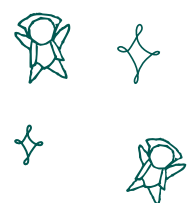
岐阜トヨペット株式会社
〒501-6012 岐阜県羽島郡岐南町八剣 4 丁目 1 番地
<https://www.gifu-toyopet.jp/>



あたりまえの、その先へ。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



岐阜トヨペット株式会社
環境レポート

2021

経営理念

- お客様を第一に考え、喜んでいただける対応を心掛け、愛され、信頼される企業を目指します。
- 社員と家族の幸せのため、働きやすく、成果が報われ、やり甲斐のある職場づくりに取り組みます。
- 社会に役立つ活動を通じ、地域に貢献できる企業を目指します。

人にとって車とはなんだろう。1956年の創業以来、私たちはいつも考えてきました。夢であったり、憧れであったり、時には大切な家族であったり。新しい毎日を走るために選ばれた1台には、確かにそれぞれの願いがこめられています。それは時代が変わっても変わらない事。人の願いと車を結ぶために、そして、人と自然と車がいつまでも一緒に走り続ける社会、「緑」「安心・安全な街」「きれいな街」「クリーンな未来」の実現を目指して、これからも走り続けます。

会社概要

本 社	岐阜県羽島郡岐南町八剣4丁目1番地
代 表 者	代表取締役会長 加藤 誠三 代表取締役社長 加藤 茂樹
設 立	1956年(昭和31年) 4月8日
資 本 金	6,000万円
事業内容	新車(トヨタ・レクサス)の販売、U-Car(中古車)の販売、自動車の整備・点検・修理など
売 上 高	202億4,677万円(2021年3月末現在)
従業員数	504名(2021年3月末現在)
決 算 期	3月31日(年一回)
主要取引銀行	十六銀行、大垣共立銀行、岐阜信用金庫
HPアドレス	https://www.gifu-toyopet.jp/

編集方針

本レポートは、岐阜トヨペットが取り組んでいる環境・社会貢献活動について報告しています。岐阜トヨペットの環境に関連する取り組みを開示することにより、多くのステークホルダーの皆様と情報を共有し、持続可能な社会につながればと考えております。

報告の対象範囲

対象組織：岐阜トヨペット全社、全事業
対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日
※一部、最新の情報を記載しております。
発 行：2021年10月

1. 緑

ふれあいグリーンキャンペーンを毎年実施。2021年で46回目を迎え、岐阜県内に苗木を贈呈・植樹を行い緑の輪を広げる活動を推進しています。(植樹本数は今までに、59品種、5,394本になります)

2. 安心・安全な街

セーフティキャンペーンを実施。各店舗に保存水100本を備蓄し、大規模災害発生時には、一斉に被災地へご提供します。

3. きれいな街

地域清掃活動を毎月実施。ボランティア活動の一環として、毎月クリーン活動を行い、各店舗周辺の清掃活動を行っています。

4. クリーンな未来

国際環境管理システム ISO14001 認証を取得。これからの地球や人類の事を考える上で、環境問題を度外視することは出来ません。そこで当社は、環境に関する国際規格(ISO14001)の認証を取得し(県下業界初)、環境に配慮した業務を推進しています。

70周年ビジョン

私のことを
わかっていてくれて、
「ありがとう」

同じ想いをもち、
協力し合える仲間

地域の皆さんと、
もっと、心でつながる活動

岐阜トヨペット70周年ビジョン

お客様が、繰り返し繰り返しご利用くださり、
太く長く、お付き合いをしたい存在になる。

岐阜トヨペットは自然豊かな岐阜の素晴らしい環境を守り 地域との繋がりを大切にします

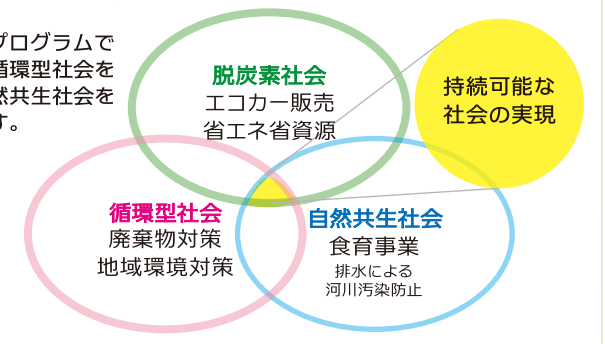


私たちは、
目標11「住み続けられるまちづくり」を
真ん中に据えてSDG s達成に向けて取り組みます



環境マネジメントの取り組み

ISO14001 プログラムで
脱炭素社会・循環型社会を
食育事業で自然共生社会を
目指しています。



岐阜トヨペットの店舗・施設

本社 	新車店舗 19 店舗 	レクサス店 1 店舗 	中古車 (U-Car) 店舗 1 店舗 	BPセンター 	物流センター U-Carセンター
トヨタのすべての新車を販売 ※一部取り扱いのない車種あり			レクサスの新車とCPOを販売	トヨタ車を中心に国産車を販売	お客様のお車のキズやヘコミなどの钣金・塗装修理
マルシェ事業 ● 岐阜方面 ● 羽島方面			食育事業 ● 宇津志ファーム ● 伊自良ファーム		

物流センター：新車点検・用品の取付・車両配送
U-Carセンター：中古車の仕入れ・商品化

トッピンインタビュー

岐阜トヨペットは、地球環境を守り、地域に頼りにされる店舗、地域のために働く社員、そして地域との共生を実現します。

2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、岐阜トヨペットは環境への取り組みや地域社会貢献活動を進めてきました。その思いや今後の目標を加藤社長に語っていただきました。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きかったですね。

長く継続してきた様々な地域貢献活動が中止になってしまいましたが、コロナウィルスと戦う医療従事者を、お客様と一緒に応援する「想いをカタチにプロジェクト」を立ち上げ、714万円を岐阜県に寄付しました。

新型コロナの影響で、永く継続してきたグリーンキャンペーンや地域の子も達への交通安全教室、食育の農業体験など、人と交流する活動が計画どおりできない1年になってしまいました。そこで、本業と繋がる社会貢献活動「想いをカタチにプロジェクト」を実施しました。社内からの提案で、決算前の市場が一番大きな1～3月の3か月間に、車の販売台数に応じて弊社からの寄付金を積み立てる「お客様が購入してくださることで寄付が増える」ドネーション活動です。従業員の想いをお客様と一緒に、地域でコロナと戦う医療従事者に届けることができ、とても有意義な活動ができました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、毎年恒例の「全社大会」も午前中だけのWeb開催になりましたが、午後は各職場独自の地域貢献活動を行いました。

このアイディアは、全社大会プロジェクトメンバーから出されたもので、各職場は地域の小学校や公共施設の清掃や整備、高齢者のために「認知症サポーター講座」受講など、独自の企画で活動しました。地域の方々に「岐阜トヨペットのお店が地域にあって良かった」と感謝されました。SDGs11の「住み続けられるまちづくり」に貢献できたと思っています。コロナの影響でできなかったことがたくさんある中で、逆にコロナであったからできたことでした。もちろんコロナ後にも継続したい活動でした。

環境レポート2020は、とても有効なコミュニケーションツールでした。

今まで弊社は地球環境や地域社会への貢献については、様々な取り組みをしていましたが、単発でばらばらに実施されていたので、ステークホルダー※1になかなか伝わらなかったと思います。「SDGsの目標」をキーワードに、環境レポートでまとめてみたら、「こんなにやっていたんだ」と、改めて感じました。それぞれの繋がりも非常によくわかり、整理ができ、その価値も感じる事ができました。取引先や地域自治体に配布して、弊社の思いや活動を知ってもらうことができました。特に社員は、これらの事業や活動に自分が関わっていることを知ること、更にプライドを持ってもらえたと思います。社員一人一人がお客様や地域の方達、取引先との間で話題にでき、そのことで社外からも良い反響を得ることができました。社外のいろいろな取引先の方々からも、コメントをいただきまして、中には非常に丁寧なお手紙で感想を書いて送っていただいた方もいらっしゃいます。

※1 社内、取引先、お客様、岐阜トヨペットに関係のある人々や地域・行政など



岐阜トヨペット株式会社
代表取締役社長

加藤 茂樹



自動車販売会社が目指す脱炭素社会

世界中で大きな問題になっていますが、自動車業界も大きく舵を切りました。弊社はトヨタの販売店ですが、トヨタ自動車は他の自動車メーカーとは少し違った考えを持っています。それは、単に「EV化を推進」するのではなく、「LCA(ライフサイクルアセスメント)で考える」必要があるということです。つまり生産や運搬、電気自動車に使う電力の供給など、すべての過程においてCO₂の排出を抑えることが重要です。トヨタは、ハイブリッドカー、FCEV(燃料電池自動車)、さらには水素エンジンなど、あらゆる選択肢を活用して環境性能を高めていくことを考えています。弊社でも省エネに努め、更に恵那店では太陽光発電による再生可能エネルギーを作っていて、店舗で使用するエネルギーの半分以上をまかなえています。コストがかかっても再生可能エネルギーを自社で創りだせることはとても有意義です。将来的には可能な限り、再生可能エネルギーに転換していきたいと考えています。食育事業でも、様々な自然エネルギーを活用して、地域とのエネルギー循環ができれば、素晴らしいと思います。まずは、自社でエネルギーの自給自足をしたいですね。

食育事業は、安心安全な食料を地域に供給する、地球環境にやさしい農業を目指します。

地球規模での食糧問題にはなかなか関われませんが、弊社が進めている食育事業では、安心安全な作物を生産し、ひとつ残らず食べてもらう活動を進めています。つくった野菜が小さかったり、形が悪かったり、虫食い跡があったり、普通には販売できないものを自社食堂や子ども食堂で料理し、食べてもらっています。こうした活動に地域の人や社内で仲間を増やして、安心安全な食に対して理解し、考えるきっかけになって欲しいと思っています。昨年まで食育事業についてはとても大きな構想を持っていましたが、コロナで人との交流がなかなかできなくて、この1年はかなりの部分を足踏みしてしまいました。これから食育事業の展開については、この後少しアクセルを踏み気味に行いたいですね。特に店舗での販売を強化しようと思います。明日葉茶のような加工品はどんどん進めますが、生鮮食品の商品化、例えばカレーセットなどを販売したいと考えています。全店舗への展開は無理なので、農場からの距離などの条件も含めて、いくつかの中心的な店舗では、常にとまでは言いませんが、かなりの頻度で食育事業部のものが販売できている状態にして、もっと食育事業と店舗との関係を深めていきたいと考えています。

岐阜トヨペットで働く様々な社員の、働きがいのある職場と幸せを目指しています。

ダイバーシティとインクルージョンの推進

障がいや国籍、年齢や性別などに関わらず、それぞれの個性を尊重し、認め合って良いところを活かし、一体感を持って働ける職場づくりに努めています。

弊社には12名の障がいを持つ社員がいます。それぞれの職場で「これは自分のまかされた仕事」とプライドを持って働いています。3名の外国籍の社員は、日本の自動車整備士の資格を持ち、頼りになるサービスエンジニアです。日本に定住したいそうです。また、現在60歳定年ですが、65歳まで嘱託社員として継続して勤務してもらっています。これから更に公的年金の受給年齢が引き上げられ、もっと働きたい社員への対応が課題です。女性活躍については、2年前に初めての管理職が経理課長として誕生しましたが、この業界は男性社員が多く、女性のロールモデルもいないので、これから進めていきたい課題です。弊社では7年前から店舗での「アテンダント職」を採用して、店舗での接客と事務、ショールームの管理を任せています。彼女たちにフロアマネジメントを任せることで、意識が高くなってきて、自分たちで「アテンダントマニュアル」を作成し、後輩たちの育成にも努めてくれています。将来彼女たちの中から、店長やマネージャーが出てくるのが楽しみです。

70周年に向けて、その先にある未来の岐阜トヨペットを描いてみました。

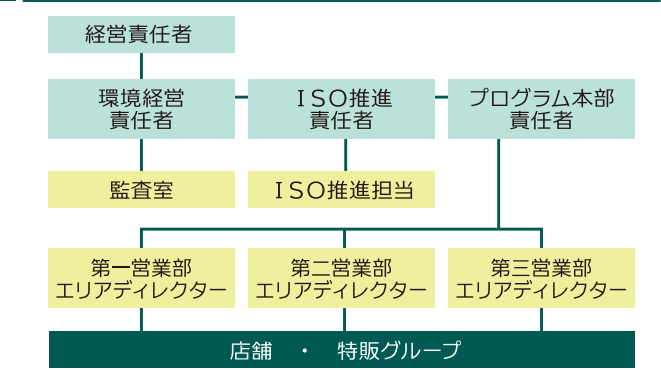
従来の自動車ディーラービジネスにこだわらず、もっと分野を広げたいと考えています。要は地域の足、移動をどう考えるか。そして移動を軸にしたいろいろな価値提供の部分を手探りで模索しながら、新しい領域もやっていきたいと思っています。岐阜トヨペットの強みは、各地域ごとにお店があって、そこに何万人という車の販売を通じたお客様がいらっしゃるので、その方々に店舗を通して、車とはまた違うものを提供できないか、新しい商品、新しいサービスっていうのをどんどんみんなで考えて、「一つでも二つでも形にしていこう」ということを言っています。それが直接的にSDGsと繋がるかどうかはわかりませんが、今後は事業領域を既定の枠にとらわれずに広げていくことを考えています。

岐阜トヨペットは、70周年を目指して「地域に頼りにされる店舗、地域のために働く従業員、そして地域との共生」を実現して、SDGs11住み続けられるまちづくりを目指します。それらは未来の子ども達に、持続可能な地域社会をつないでいくために。

環境マネジメント（ISO14001 への取り組み）

これからの地球や人類の事を考える上で、環境問題を度外視することは出来ません。私たち岐阜トヨペットは2002年より環境に関する国際規格（ISO14001）の認証を取得（県下業界初）、順次適用範囲を拡大し、2019年には本部管理部門と14店舗にて認証取得しています。ISO14001の要求事項に基づき、目的・実施計画を作成して環境活動に取り組んでいます。毎年、取り組み状況、実績を確認し、翌年の目標設定に反映し、更に環境への貢献できる活動となるようPDCAサイクルを回しています。

環境マネジメント組織図



環境マネジメントシステム

2002年3月に本社管理部門、長良店、大垣西店がISO14001の認証取得し、その後岐阜南店、各務原店、美濃加茂店、大垣店、レクサス長良多治見店、高山店、県庁前店、関店、恵那店、岐阜東バイパス店、土岐店で認証範囲を拡大しました。2021年度は、可児店、リフェスタ岐阜の認証取得を目指し取り組んでいます。



地域環境対策（環境汚染の予防）

著しい環境側面・リスク及び機会・順守義務	目 標	実施事項	評価
近隣住民に安心しショップで暮らせる	●グリーンキャンペーン活動の展開等	●イベント、キャンペーンの立案	△
●全社一斉ボランティア活動の実施	●月1回全社一斉ボランティア活動	●緑の募金の展開、寄付	○
●洗車・下回り洗浄及びテクノショップの排水及び汚泥の排出	●油水分離槽の適正な管理 水質の適正管理	●毎月第二水曜日に店舗近隣の清掃活動の実施 ●毎週金曜日に油水分離槽の点検清掃の実施 ●年2回 専門業者による油水分離槽の汚泥回収を実施 ●年1回 専門業者による排水質検査の実施	○ ○ ○ ○
●オイル交換の新油の保管	●新油・廃油・廃部品の適正な保管	●消防法に適合した少量危険物置場の設置、保管量の管理	○
●車両入庫時、保管時における油の流出	●緊急時における影響の拡散防止	●毎年7月に緊急事態想定訓練の実施	○
●騒音・振動の発生	●住民の生活環境を保全する	●静音タイプの機器の導入 ●年1回、特定施設に係る、騒音振動の測定	○ ○

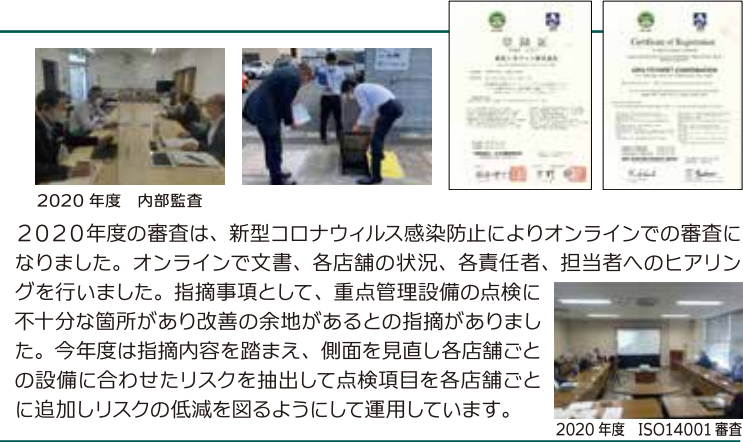
排水及び汚泥の排出

- ①車両の洗浄や洗車など、工場から排出される排水に油分が含まれたまま排出されないように、大型の油水分離層を設け排水の滞留時間を十分確保し、油分と汚泥を分離し排出しています。
- ②油水分離槽は年に2回専門業者による清掃を行い、機能が確保されるようにしています。
- ③地域排水の調査では自主基準を設け、年1回外部機関にて水質検査を実施し異常がないかの確認を行っています。
- ④緊急時に排水の流出を早急に止めるため、油水分離槽への入口、もしくは出口に止水弁を設置し即座に流出を遮断できるようにしています。



環境方針

- ① 事業活動を行うに当たり、環境への負荷を正しく認識し低減に資するよう、全社員で積極的かつ継続的に環境改善に取り組む。
- ② 環境保全は、汚染発生の原因究明が基本と考え常に教育、訓練に努め技術の修得により再発を防止し、汚染の予防を図る。
- ③ 事業活動において率先し省資源、省エネルギー、リサイクルの推進に努め、廃棄物の発生削減に取り組む。
- ④ 環境に関する法律、規則、協定等を順守し更に自主基準を定めて、環境保全レベルの向上を図る。
- ⑤ お客様への車に関する環境情報を積極的に提供し、低公害車・低燃費車の普及に努める。
- ⑥ 地域社会への貢献を大切にし地域の環境保護活動に協力する。



2020年度 ISO14001 審査

騒音・振動の低減

店舗には空調用室外機、工場で使用するエアツール用の圧縮空気をつくるエアコンプレッサー、自動車を洗車する門型洗車機、下回りの洗浄を行うスチーム洗浄機など、作動時に様々な音や振動を発生する機器が設置されています。岐阜県公害防止条例を遵守するため、静音タイプのエアコンプレッサーや洗車機の導入を進めています。洗車機には壁や屋根の設置を進め、騒音の低減や水しぶきの飛散防止を図っています。機器の保守管理のため、毎週金曜日に「重点管理日常点検」を行い、異常の発見に努めています。また、年一回振動と騒音の実測検査を行い、基準値内であることを確認しています。



廃棄物対策（循環型社会を目指して）

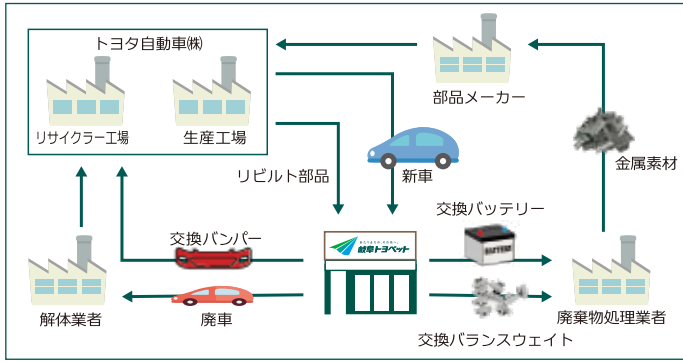
著しい環境側面・リスク及び機会・順守義務		目 標	実施事項	評価
使用済車の適正な処理	●使用済車の排出	●使用済車処分許可業者との取引	●委託業者の選定と許可の確認、契約締結	○
	●電子マニフェストシステムの運用	●電子マニフェストシステムの適正運用（使用済車）	●自動車リサイクル法に沿った使用済車の排出 ●電子マニフェストシステム運用管理台帳にて実施状況の確認、把握	○
	●解体業者の選定と契約	●使用済車処分許可業者との取引	●契約内容と許可内容の整合性確認	○
	●委託業者への現地現物の確認	●委託業者への現地確認	●委託業者との契約締結及び自動更新時に許可保有の確認	○
廃油・廃部品の適正な処理			●自動車リサイクル法に基づく、処理事業者の確認	○
	●部品交換による廃部品の排出	●本部スタッフによる周辺のチェック	●チェックシートに基づく 周辺チェック、改善指示	○
	●部品交換による（マニフェストの運用管理）	●電子マニフェストの適正運用（産業廃棄物）	●受渡管理台帳と電子マニフェスト入力 状況の確認	○
	●委託業者の選定と契約	●許可業者との取引	●契約内容と許可内容の整合性確認	○
			●委託業者との契約締結及び自動更新時に 許可保有の確認	○
	●委託業者への現地現物の確認	●委託業者への現地確認	●廃掃法に基づき、産業廃棄物処理事業者の確認	○
	●LLC交換による廃LLCの排出	●廃LLCの適正処理の推進	●廃LLCタンクでの適正保管、排出時の 「受渡確認表」の発行	△
リサイクル促進 廃部品の	●水銀使用製品産業廃棄物 （廃蛍光管など）の適正処理	●許可業者との取引	●本部へ集約し許可業者へ排出	○
	●廃バンパーの排出	●リサイクル可能廃バンパーのリサイクル率	●トヨタリサイクルルールに基づき	○
	●廃バッテリーの排出	●廃バッテリーのリサイクル推進	TMPへ送付	○
	●廃バランスウェイトの排出	●バランスウェイトのリサイクル推進		○

○=できた △=一部できた ×=できなかった

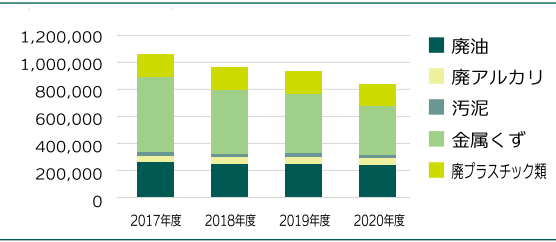
廃棄物の適正処理

店舗から排出される廃棄物を金属、プラスチック、ガラス類、可燃物、段ボールに分別し、それぞれ仕切りにより独立した廃棄物置き場に保管します。また、産業廃棄物が適正に処理されているかを2年に一度産業廃棄物委託業者へ赴き確認を行っています。廃棄物処理法に基づき、電子マニフェストを2015年より導入しています。

- ①廃部品のリサイクル促進：修理等で交換したバンパー・バッテリー・バランスウェイトをリサイクルルートにのせてリサイクルに取り組んでいます。
- ②水銀使用製品産業廃棄物（廃蛍光管など）の適正処理：水銀が含まれている廃棄物を、他の廃棄物と混合しないように保管し、専門の廃棄物処理業者に委託し処理をしています。
- ③LLC交換による廃LLCの排出：自動車のエンジンの冷却に使用されているLLC（冷却水）には化学物質のエチレングリコールが含まれているため専門業者に委託し適正処理に取り組んでいます。
- ④廃油の排出：エンジンオイル交換などで排出されるオイルを適正に保管後、委託業者にて再生油として再資源化に取り組んでいます。



(kg)	廃油	廃アルカリ	汚泥	金属くず	廃プラスチック類	合 計
2017年度	261,945	48,929	26,840.0	552,231	169,514	1,059,459
2018年度	250,983	46,601	26,950.0	474,958	166,315	965,807
2019年度	253,728	46,748	29,040.0	437,236	167,675	934,427
2020年度	242,073	49,381	21,560.0	369,079	159,560	841,653





地球環境対策（脱炭素社会を目指して）

著しい環境側面・リスク及び機会・順守義務		目 標	実 施 事 項	評 価
地球温暖化防止	● 低公害車・低燃費車の販売	● 低公害車・低燃費車の普及及び環境負荷の低減	● HEV、PHEV、FCEV 販売推進	△
	● エコ商品の販売	● エコ商品の普及によるCO ₂ の低減	● エコ商品の販売推進	△
	● 指定整備適正運営の推進	● 車検入庫量の増大	● 車検実施台数の増大・適正運営の実施	△
省エネルギーの推進	● 省エネルギー対策	● 原単位*による電気使用量の削減	● 空室では消灯の励行、昼休み消灯に努める	△
		● 原単位*によるウエス使用量の削減	● 再使用箱の設置と活用	○
		● 原単位*による水道使用量の削減	● 不要な水道水は使わない、すぐ止める	○
	● 修理車からの特定・代替フロンの排出	● 修理車からの特定・代替フロンの回収・再利用	● フロンガスの回収・再利用	○

○=できた △=一部できた ×=できなかった

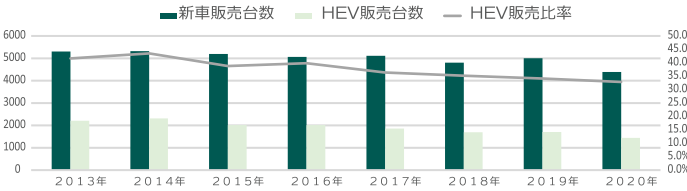
低燃費・低公害車の販売

自動車の排気ガスから排出される、地球温暖化の原因とされるCO₂を抑制するためにHEV、PHEVの販売、CO₂を排出しない燃料電池車MIRAIの販売に取り組んでいます。



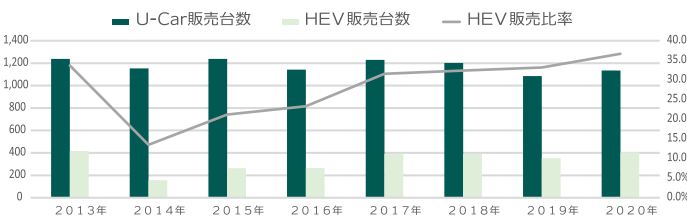
新車販売台数に対する HEV 販売台数・販売比率

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
新車販売台数	5,306台	5,324台	5,197台	5,062台	5,116台	4,807台	5,002台	4,388台
HEV販売台数	2,208台	2,316台	2,016台	2,018台	1,861台	1,692台	1,707台	1,442台
HEV販売比率	41.6%	43.5%	38.8%	39.9%	36.4%	35.2%	34.1%	32.9%
PHEV販売台数	11台	19台	-	-	74台	47台	34台	21台
FCEV販売台数	-	-	1台	3台	3台	2台	-	1台



U-Car 販売台数に対する HEV 販売台数・販売比率

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
U-Car販売台数	1,238台	1,153台	1,238台	1,142台	1,230台	1,202台	1,085台	1,135台
HEV販売台数	417台	156台	263台	266台	389台	390台	353台	405台
HEV販売比率	33.7%	13.5%	21.2%	23.3%	31.6%	32.4%	33.2%	36.7%



充電スタンド（G-Station）を全店舗に設置

PHEV を販売・普及のためにインフラ整備として全店舗に充電スタンドを設置し、お客様が充電できるようにしています。



省エネルギーへの取り組み

- ①地球温暖化を防止する国民運動「チャレンジ25キャンペーン」への協力
- ②店舗づくり
 - エコタイプの空調機器の導入：電気の使用量を抑えるためにエコタイプの空調機器を導入しています。
 - 照明機器のLED化：店舗内、工場、駐車場、展示場の照明のLED化を推進しています。
 - 人感センサー式ライトの設置：常時点灯の必要が無い箇所にセンサー式のライトを設置し、電気使用量を抑えるようにしています。
 - 節水タイプの洗車機の導入：最新の節水タイプの洗車機を導入し、節水に取り組んでいます。
 - デマンドシステムの導入：電気の使用量を見える化することで使用量の削減に取り組んでいます。



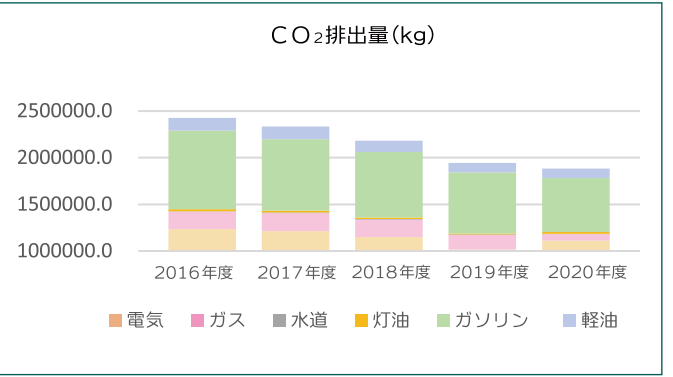
活動結果（脱炭素社会を目指して） 前年実績を目標値として使用量削減に取り組んでいます。

省エネルギーへの取り組みとして、エネルギー使用量の目標を「前年使用量を超えないこと」とし削減に取り組みました。店舗の改築、リニューアルの際には「オール電化」を取り入れてることもあり電気使用量は増加傾向ではありますが、ガス使用量の大幅な低減が図られ、CO₂ 排出量は年々削減できています。

エネルギー使用量

使用量	2019年度	2020年度	評価
電気（Kwh）	2,328,169.0	2,537,234.0	×
上水道（㎡）	18,405.0	16,344.4	○
ガス（㎡）	26,102.5	11,717.4	○
灯油（ℓ）	4,245.5	7,006.0	×
ガソリン（ℓ）	282,289.2	250,093.3	○
軽油（ℓ）	38,501.8	35,639.7	○

エネルギー使用量に係数を乗じた CO₂ 排出量



環境家計簿（脱炭素社会を目指して）

2020 年度店舗別 CO₂ 排出量

	電 気 0.445	上水道 0.240	ガ ス 6.000	灯 油 2.490	ガソリン 2.320	軽 油 2.580
岐阜東バイパス店	29,071.9	8.6	0.0	0.0	18,093.2	2,539.8
島店	35,426.5	182.9	0.0	0.0	16,692.4	2,724.5
長良店	35,534.6	364.1	342.0	0.0	26,371.9	3,865.4
岐南店	50,232.0	197.5	141.9	0.0	29,977.0	4,179.0
各務原店	41,751.2	221.3	74.4	0.0	19,556.5	2,910.0
レイホーモール店	34,387.6	178.2	0.0	0.0	10,556.3	842.6
県庁前店	49,635.7	23.5	0.0	0.0	22,903.9	2,813.5
大垣店	64,399.1	31.4	141.0	0.0	33,854.6	5,877.7
大垣西店	34,209.8	17.0	108.0	448.2	16,543.5	1,862.0
真正店	47,192.3	12.0	5.4	921.3	22,451.5	3,803.3
大垣北店	49,516.5	0.0	67.8	0.0	12,725.6	3,343.4
美濃加茂店	73,882.5	79.9	253.2	0.0	28,148.1	3,458.2
関店	41,177.2	45.4	0.0	0.0	19,927.5	3,743.6
郡上店	11,651.0	48.7	82.8	2,171.3	6,072.6	2,732.0
可児店	33,874.3	114.5	177.0	0.0	17,861.9	2,499.4
多治見店	45,345.5	198.7	189.0	796.8	24,567.4	7,973.5
恵那店	18,126.6	102.2	0.0	0.0	21,374.1	4,608.3
土岐店	28,929.9	95.5	0.0	4,905.3	21,392.3	2,824.3
中津川店	28,504.5	116.4	60.0	0.0	11,836.6	6,492.3
高山店	33,832.9	226.3	16,877.4	5,497.9	30,442.7	14,935.3
リフェスタ岐阜	8,374.9	18.2	0.0	0.0	6,139.4	1,119.7
レクスス長良	78,250.1	254.6	0.0	0.0	63,129.4	1,377.7
U岐南店	36,075.3	47.8	0.6	0.0	-	-
U大垣店	14,859.9	5.8	0.0	0.0	-	-
本部	93,642.2	392.0	2,175.3	0.0	99,198.9	6,210.3
センター	111,185.5	940.1	49,608.6	2,704.1	399.3	17.0
合 計	1,110,944.3	3,922.7	70,304.4	17,444.9	580,216.5	91,950.3

年度別 CO₂ 排出量

係数	電 気 0.445	太陽光発電 売電量(Kwh)	差引 使用量（ℓ）	CO ₂ 排出量(kg)
2016年度	2,772,570.0	-	2,772,570.0	1,233,793.7
2017年度	2,727,556.0	-	2,727,556.0	1,213,762.4
2018年度	2,583,810.0	-	2,583,810.0	1,149,795.5
2019年度	2,328,169.0	43,839.0	2,284,330.0	1,016,526.9
2020年度	2,537,234.0	40,730.0	2,496,504.0	1,110,944.3

係数	水 道 0.240	ガ ス 6.000	CO ₂ 排出量(kg)
2016年度	17,419.0	4,180.6	31,491.6
2017年度	19,338.0	4,641.1	32,258.3
2018年度	18,019.0	4,324.6	31,396.0
2019年度	18,405.0	4,417.2	26,102.5
2020年度	16,344.4	3,922.7	11,717.4

係数	灯 油 2.490	ガソリン 2.320	CO ₂ 排出量(kg)
2016年度	8,017.0	19,962.3	362,680.0
2017年度	8,583.3	21,372.4	329,115.0
2018年度	6,811.0	16,959.4	302,829.0
2019年度	4,245.5	10,571.3	282,289.2
2020年度	7,006.0	17,444.9	250,093.3

係数	軽 油 2.580	CO ₂ 排出量(kg)
2016年度	53,354.9	137,655.7
2017年度	52,890.2	136,456.7
2018年度	46,394.0	119,696.4
2019年度	38,501.8	99,334.6
2020年度	35,639.7	91,950.3

排出係数典拠
◆電気
「電気事業者別排出係数-令和3年度実績」のうち中部電力の調整後排出係数
◆ガス
日本LPガス協会「プロパン、ブタン、LPガスのCO₂排出係数に係るガイドライン」
◆水道
高山市環境政策推進課算出
◆灯油・ガソリン・軽油
「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」における算定方法・排出係数一覧

環境影響とマテリアルフロー

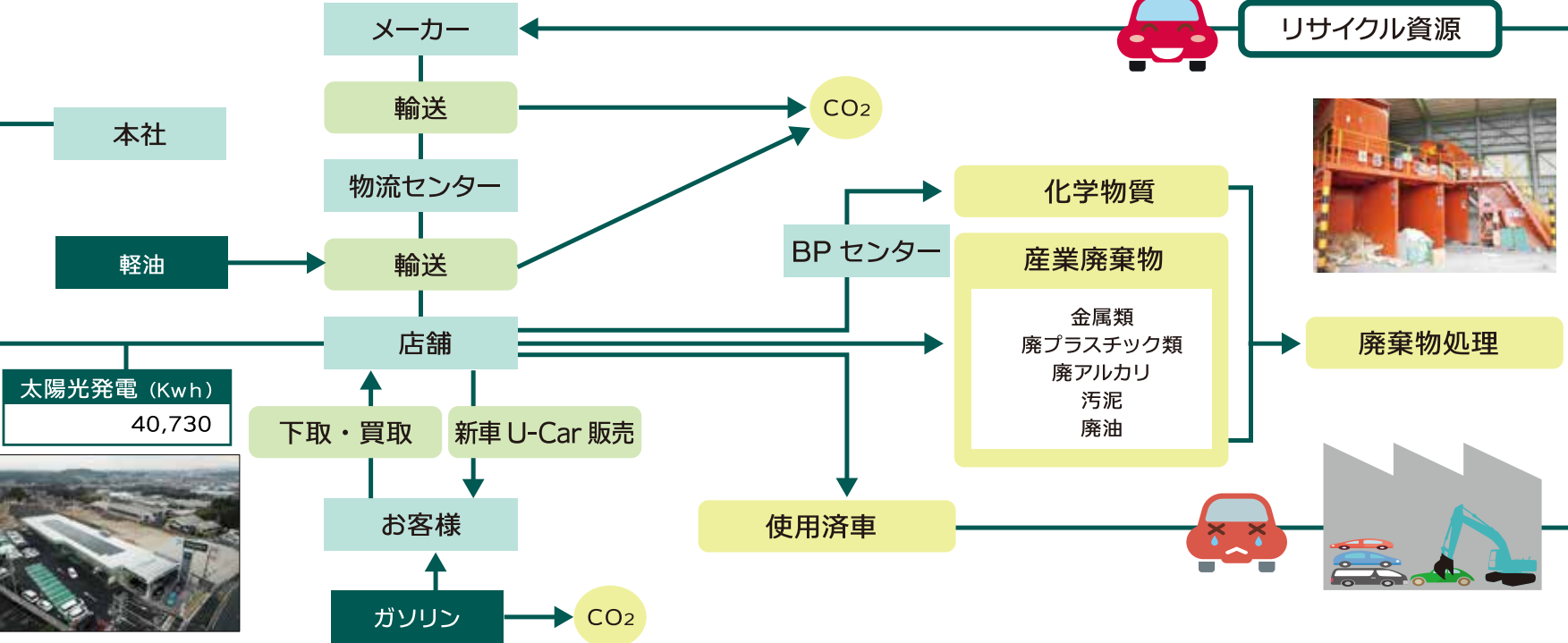
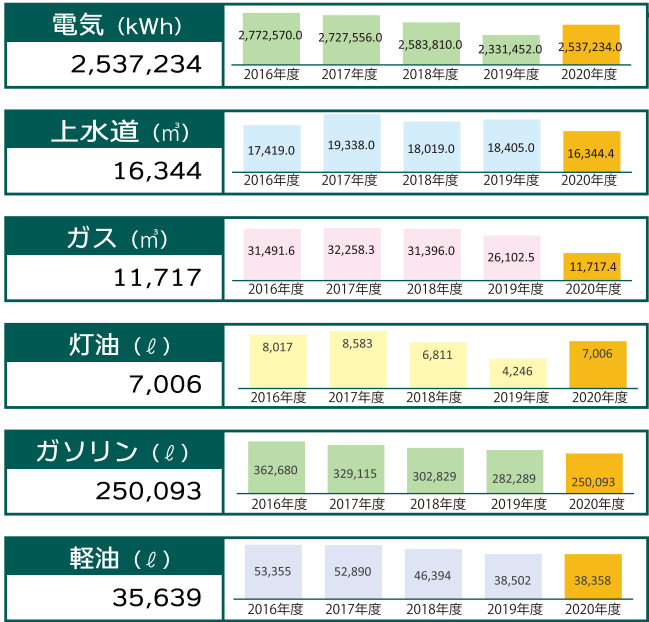
岐阜トヨペットは、環境と経済そして地域社会との調和を目指した事業活動を行っています。
これからも人の願いと車を結ぶために、そして、人と自然と車がいつまでも一緒に走り続ける社会、
「緑」「安心・安全な町」「きれいな街」「クリーンな未来」の実現を目指して、これからも走り続けます。



環境負荷低減への取り組み

脱炭素社会の実現と地球温暖化防止に向けて HEV、PHEV、FCEV の販売を推進し、あらゆる省エネ設備の導入を積極的に進めています。
また、食育事業の農園では、農園の作物が CO₂ の吸収、貯留をしてくれています。
仕事を通じて排出される廃棄物の適正処理を行うことで、環境法令を遵守しています。
交換部品のリサイクルを推進し、省資源化に取り組んでいます。
地域の皆様とつながる店舗づくりの為に、設備の見直し、振動・騒音の低減に取り組んでいます。

使用量（2020年度）



産業廃棄物排出量（2020年度）

金属類 (t)	369.1	電気 CO ₂ (kg-CO ₂ /Kwh)	1,110,944
廃プラスチック類 (t)	159.6	上水道 CO ₂ (kg-CO ₂ /Kwh)	3,923
廃アルカリ (ℓ)	37.2	ガス CO ₂ (kg-CO ₂ /Kwh)	70,304
汚泥 (m ³)	19.9	灯油 CO ₂ (kg-CO ₂ /Kwh)	17,445
廃油 (ℓ)	221,150	ガソリン CO ₂ (kg-CO ₂ /Kwh)	580,216
		軽油 CO ₂ (kg-CO ₂ /Kwh)	91,950





食育事業の取り組み（自然共生社会を目指して）

岐阜トヨペットは「食を通じて生きることの本質を伝えたい」という想いから耕作放棄された中山間地の里山で無農薬・無化学肥料(有機)栽培に取り組んでいます。2つの農園で、野菜と米作りをはじめて4年目になります。安心安全を伝える基盤にある農業生産と共に、体験を通じ体感する大切さを伝えています。社会福祉協議会とも連携することで、地域に寄り添い必要とされる会社を目指し活動しています。

食育事業の目的 豊かな自然と食の大切さを次世代に伝える

6年後に迎える70周年ビジョンに向かって

子どもの生きる力を育む

を目的に有機複合型農園を目指しています

岐阜トヨペットの食育事業は、子どもの生きる力を育む事を目的とし、食を通じて生きる事の本質を伝える事で、自然共生社会の構築を目指します。



宇津志ファームでは野菜類、伊自良ファームではお米を、栽培期間中無農薬・無化学肥料(有機)で栽培しています。農作物を作りはじめて4年目を迎え、ファーム環境の変化が見え始めました。畑の土は事業当初より柔らかく感じ、水田では【アカハライモリ】や【コオイムシ】や【ガムシ】が増え、虫達の中の共生社会が感じられるようになりました。土中微生物や虫たちから生物多様性を捉え生き物の世界を俯瞰した時、2つのファーム環境が自然環境と共生しはじめていと実感しています。そんなファームを沢山のの人に知ってほしいという想いから、豊かな環境で育てた農産物は自社店舗での展開を重視しています。また、食育体験として春には小学生のお米作り授業と田植え体験を催し、秋には生き物観察会や収穫祭の開催を予定しています。今後は学校との連携に加え、お客様が家族連れで野菜づくりや自然体験を通して楽しく学べる場所として、フィールドづくりを充実していきたいと考えています。

食育事業として

伊自良ファームの近隣にある小学校で行われる、地域の歴史や伝統・農業や自然を学ぶ「ふるさと学習」という授業の中で、お米の作りの授業と田植え(手植え)を体験してもらいました。

農園スタッフ横山さんの声



ファームを営む中で少なからず自然界に環境負荷を与えてしまいます。化学に頼り切らない栽培方法は昔ながらの農法かもしれませんが、栽培期間中、無農薬・無化学肥料(有機)栽培は自然循環型農法でもあります。持続可能な社会を目指す中で、作物づくりに重要な農法であると思います。土壌微生物が飽和し、生き物が共生できる環境づくりは人と生き物の関係が豊かさを育み、作物たちも元気に育つのではないかと、田畑で出会う生き物を観察して感じます。子ども達の食育体験を通じ伝える中で、新たな目線や気づきを教えてもらうこともあります。何より体験を楽しむ子ども達の声が中山間地に響き渡ることが地域活性化にも大きな影響を与えるのではないかと感じます。人と自然、人と人を結ぶことは自然共生と地域共生に通じ、私たち岐阜トヨペットが目指す本質への道です。



お米の作り方の授業を行いました。初めて田植えをする児童が大半で、お米に必要な水はどこから来るのか?どんな生き物が住んでいるのか?とたくさんの質問が出ました。生物の生態系やお米の有難さに関心を持ってくれました。



田んぼに初めて素足で入る子ども達から、キーンキーンと歓声があがり興奮する様子でした。泥の匂いや温度、ニルツとした質感を体感しながら、稲の苗を丁寧に植える姿が印象的でした。



田植えをする苗(稲)の葉っぱの枚数や根っこについての話と植える本数や植え方の説明を子ども達は「へー」「そうなんだ!」と真剣に聞いてくれ、田植えへの興味が伝わりました。



「中日新聞」と、「広報山県」に取り上げて頂きました。

2020年度の食育事業従事者数

のべ **892人**

2020年度の食育事業従事者数はのべ892人に上り、ファーム職員に加え農繁期は岐阜トヨペット全体で食育事業を支えています。

宇津志ファーム 9,200㎡



主な作物
・らっきょう 398kg
・さといも 440kg
・さつまいも 135kg
・明日葉 235kg

2018年4月 耕作放棄地にて宇津志ファーム開設。田畑転換した畑地は砂質が多く、水捌けが良いです。冬季の日照は少なくなりますが、山水が豊富な土地で露地栽培をしています。



伊自良ファーム 16,000㎡



主な作物
・お米 772kg

2019年4月 耕作放棄地にて伊自良ファーム開設。中山間地の洞を切り開いた場所にある田園は陽当たりが良く、山水と地下水の綺麗な水を水源としています。田圃は沼田と言われる泥の深い場所が多く、水捌け作業を重要なポイントとしています。



自社店舗で販売

露地栽培(ハウス等を使わない栽培)をしているファームでは季節に応じた旬な時期に野菜を出荷しています。地産地消は元より旬産旬消に取り組み、自社店舗での販売を大切にしています



CO2 吸収量

有機的に管理された農地 2.52ha
(宇津志ファーム 0.92ha・伊自良ファーム 1.6ha)

1年間のCO2吸収効果
約 **26.85t**
の効果が見込めます。

※有機圃場と慣行圃場の土壌炭素貯留量の違いを比較

明日葉で人と地球を健康にしたい！

健康野菜を育てたいと考えたとき、CO2 吸収量の高い明日葉と出会いました

明日葉はその名前のとおり「今日、採っても明日には芽(葉)が出る」と言われるほど、植物の中でも非常に強い生命力を持つセリ科の野草です。明日葉特有のポリフェノールの特徴である【カルコン】には、数々の優れた薬理作用があることが研究報告されています。原産地は日本ですが、伊豆諸島等の南国植物であり降雪地域での越冬が困難な為、栽培地域が限定されていました。しかし、品種選抜を経た「原生林あしたば」は降雪地越冬可能品種として栽培可能地域が増えました。さらに、CO2 吸収量の高い作物であると研究報告されており脱炭素社会への取り組みに貢献できる作物として、私たちは社会(地域)と環境(自然)に貢献できるミッションとして、2020年より栽培を始めています。



2020年4月



2020年12月



2021年1月



2021年1月



2021年4月

明日葉の商品化

収穫した生の明日葉を乾燥させてから様々な加工商品化に向けて試作しています。



明日葉茶

ある社員の声

明日葉茶を毎日1ℓ飲み、夜の食事を野菜中心にして食べる量を抑えながら半年間生活したことで、血圧や脂質、肝機能に至るまで基準値内に入る改善が見られました。

肝機能	基準値	2021年1月	判定	2021年6月	判定
AST(GOT)	40以下	77	C	31	A
ALT(GPT)	70以下	148	D	44	B
γ-GT(γ-GTP)	40以下	73	B	37	A
脂質					
LDLコレステロール	70~139	144	B	87	A
血圧					
最高血圧	100~139	159	C	132	#A
最低血圧	89以下	107	D	88	#A
体重	マイナス	2.5キロ			
腹囲	マイナス	2.8cm			
BMI	マイナス	0.9			

数値が改善しました



お客様に選ばれるお店作り（ワクワクするお店作り）

70周年ビジョンでもある【お客様が繰り返し繰り返しご利用くださり、太く長く、お付き合いしたくなる】存在になるために、お車をご購入いただいたお客様に、購入して頂いた時と購入して頂いてから3年後（U-Carは2年後）にアンケート調査を行っています。アンケートにはお客様のさまざまなご意見やご要望をいただきます。いただいたご意見を真摯に受け止め、「NPS向上活動」として、課題を見つけ改善活動に取り組み、お客様がまた行きたくなる店舗づくりに取り組んでいます。※NPS(Net Promoter Score（ネットプロモータースコア）の略で、顧客ロイヤリティを測る指標です。)

多様なお客様に対応した入りやすいお店を目指して

全ての人の快適で素敵なカーライフをお手伝いします。お身体の不自由な方、ご年配の方、小さなお子様連れの方にも安心してご来店いただけるよう、店舗内はもちろん駐車場もバリアフリー設計です。多目的トイレや授乳室（一部店舗）をご用意しています。

●福祉車両（ウエルキャブ）販売&レンタカー

トヨタの福祉車両（ウエルキャブ）は「移動する自由」をもっと身近にものにするため、多様な装備・装置を選んでいただけます。専門の知識を備えたウエルキャブコンサルタントが常駐し（県庁前店）、お客様一人一人にマッチした、より快適なクルマ作りのお手伝いをいたします。また、すぐに使いたい、ご旅行をされたいというときのためにウエルキャブのレンタカーをご用意しています。（どちらのお店でも受け付けいたします）



●多目的トイレ

みんなにやさしいトイレがあります。安心して使用していただけるよう定期的に掃除し、消毒作業を実施しています。



●授乳室・キッズコーナー

一部の店舗にはお母さんと赤ちゃんのために授乳室を用意しています。また全ての店舗に安心してご利用いただけるキッズコーナーを設置しています。



雨降りの日にお客様が来店されてもぬれずにお店に入店できるようにしています。



車いすやベビーカーでも店舗に段差なしで入店できるようにバリアフリー化を進めています。



お身体の不自由な方、お子様連れのお客様にも快適に過ごしていただけるよう、店舗の新築・改装時に設備のバリアフリー化を図って

岐阜トヨペットは地域を支え、寄り添う店舗を目指しています

岐阜トヨペットのすべてのお店では、地域で災害が発生した場合に備えて飲料水や非常食を備蓄しています。そして地域の方の万が一の避難にも最低限対応できるように、給電できるクルマをはじめ装備の充実を進めています。

災害など万が一の時に備えて

●災害備蓄水

全国トヨペット店の「セーフティキャンペーン」の取り組みとして、災害に備え、全店舗に保存水を備蓄しています。災害が発生した場合被災地にいち早く保存水を供給することで、地域を支える店舗をめざしています。2020年7月に飛騨地域で発生した豪雨災害では、当社の社員が協力して保存水を届けることができました。県外で災害が発生し、他県から要請があった場合にもすぐに送ることができるよう準備しています。



●全事業場 AED の設置

岐阜トヨペットでは、お客様や地域住民の方の万が一に備え、AED（自動体外式除細動器）を全事業場に設置しています。全事業場の社員が AED の使い方を学んでいます。新入社員研修では、消防署の方に来ていただき「普通救命講習」を受講し、心臓マッサージの仕方や AED の使い方を学んでいます。



●災害地域支援店舗

岐阜トヨペットでは各事業場に非常用の食料や備蓄水、電源リール、投光器、簡易トイレ、ヘルメットを保管し、社員ならびに地域で被災された方のために備えています。



非常用食料やヘルメット

●給電できるクルマ

各店舗に設置してある HEV（ハイブリット車）や PHEV（プラグインハイブリット車）、FCEV（燃料電池自動車）の試乗車にはすべて AC 電源のオプションを装備しています。万が一災害が発生し、停電になったときに電源車として活用することができます。携帯電話の充電はもちろん、1,500 ワットまでの家電製品が使用できる能力があり、例えば電子レンジや電気毛布なども使用することができます。実際に全国の災害現場で発生している災害での避難などで活躍しています。小中学生向けの出前授業ではクルマが電源として使えることを実演しました。



お客様サービス向上のための各種設備

お客様を「お出迎えするとき」、「お見送りするとき」を大切にしています。そして大切なお車を納車させていただく際の、お車に関するご説明にはとくに力を入れています。ご来店いただいたお客様や地域の方に少しでもくつろいでいただきたい、また便利なお店と感じていただきたい、そんな思いでお店づくりをしています。少しでも快適に過ごせて、クルマが目的でない方にも立ち寄りやすいそんなお店を目指しています。

お客様が快適に過ごせるように

●VRショールーム

2020年から、すべてのトヨタのお店ですべてのトヨタ車をご購入いただけるようになりました（全車種併売）。取り扱い車種が大幅に増えたため、一つのお店にすべてのクルマを展示することは難しく、お客様がご希望される車種をお見せすることができないこともあり、ご不便をおかけすることがありました。すべての店舗にVRを導入することにより、全車種・全グレードのクルマが自分の目の前にあるかのようにリアルにご体感いただけるようになりました。外装色や内装なども驚くほどの質感で比較していただくことができ、ご好評いただいています。



●ナンバー認証システム

お客様のご来店をスタッフ全員に報せ、すぐにお出迎えできるようナンバー認証システムを順次導入しています。ご予約いただいている場合はそのご用件もわかり、お客様をお待たせすることなくスムーズにご案内できるようにになりました。さらなるサービス向上のため、店舗ミーティングではよりよい対応について話し合い、改善に取り組んでいます。



お客様にくつろいで過ごしていただけるようカフェスペースを設けています。



すべての店舗に PHEV、電気自動車に充電できる G-ステーションが設置してあります。

●納車ルーム

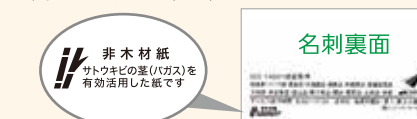
「交通事故死傷者ゼロの社会」をめざして新しい技術が開発され、年々進化した安全機能が搭載された車が次々と誕生しています。お客様がお車を安心安全にお使いいただけるよう、岐阜トヨペットでは、納車説明をしっかりと行っています。新しく建て替えた店舗から順次専用の納車ルームを設けて、落ち着いた環境の中でお客様にお車の説明を行うようにしています。お客様からも「わかりやすい説明だった」、「特別感があつた」などのお声を頂いています。



環境に配慮したサービス

●名刺に環境マークが入りました！

全社で年間 85,000 枚使用している名刺を、サトウキビの繊維からできているものに変更し環境に配慮した取り組みをしています。



●環境にやさしい素材の封筒を使用

お客様へ書類をお渡しする際や案内を郵送する際の封筒は、「FSC 認証」※1 や「R100」※2、また窓あき封筒には窓部分も古紙として再生できるグラシン紙を使用しています。

※1 FSC 認証パルプの原料が適正に森林管理されたもの
※2 R100 再生紙 100%



●紙ストローへの切り替え

岐阜トヨペットではお客様に呈茶する際のストローを紙製に切り替えています。（2022年4月より「プラスチック資源循環促進法」が施行されます）



紙ストロー

●環境にやさしい袋の導入

お客様にカタログ等をお持ち帰りいただく際の手提げ袋を、土にかえる生分解性ポリエチレン製にし、自然環境を守るようにしています。



生分解性ポリエチレン袋

地域社会貢献活動（全社大会）

岐阜トヨペットでは創業以来地域に根ざした企業として社会貢献に取り組んできました。2021年4月の全社大会は新型コロナウイルス感染予防のため、午前中のみリモートでプログラムを組み、午後の時間を使って県内すべての事業場ごとに小学校や福祉施設、地域周辺の清掃活動等を実施しました。



すべての事業場で実施しました

33 箇所
500 名（ほぼ全社員）参加

1. 緑

緑豊かな岐阜の自然を守るため、河川清掃や外来種駆除などを行いました

3. きれいな街

住みやすくてきれいな街を保つため、道路清掃や公共施設などの清掃を行いました

9 箇所

2. 安心・安全な街

地域の皆様と共にいつまでも安心安全に暮らしていけるよう福祉活動などを行いました

4. 地域の文化財を守る

歴史ある地域の文化財を守るため、施設の保護作業や清掃を行いました

2 箇所

1 箇所



本社



●清掃活動

岐阜市立北小学校・岐阜市立東小学校・うれしの認定こども園・うれしの東保育園・岐阜さくら保育園・岐阜さくら北保育園・岐阜さくら南認定こども園・岐阜さくら認定こども園けやきの社・岐阜市立岐阜小学校



岐阜地区

01 岐阜東バイパス店



荒田川周辺の清掃活動

02 島店



認知症サポーター養成講座受講

03 長良店



店舗周辺の通学路になっている地下道の清掃

04 岐南店



岐阜市立西小学校の清掃

05 各務原店



各務原大橋交流広場にて公園と近隣の河川敷清掃

06 レインボーモール店



岐阜スーパースの選手と共にOKB清流アリーナの清掃

07 県庁前店



店舗周辺の清掃



全社大会総責任者に聞きました

新型コロナウイルス禍での全社大会は昨年からリモート開催に変更しました。全社員そろっての表彰式や各部署からの発表がなくなったため、スケジュールについてプロジェクトメンバーで話し合いました。当社の経営理念に基づき、「地域のお役に立ちたい」というプロジェクトメンバーの思いから全社員で地域貢献活動に取り組むことにしました。社員の皆さんも趣旨をよく理解してくれ、学校のトイレなど清掃活動を全社員で一生懸命取り組むことができました。また子どもたちからお手紙をいただき、幸せな気持ちになりました。地域貢献の取り組みを進めて本当に良かったと思います。

國島さん



西濃地区

08 大垣店



犬ヶ渚町の水路清掃

09 大垣西店



店舗西側の水路清掃

10 大垣北店



店舗周辺の水路清掃

11 真正店



近隣小学校の通学路、地域の散歩道の清掃

中濃地区

12 美濃加茂店



やすらぎの家 室内・駐車場周りの側溝清掃

13 関店



美濃市曾代付近河川敷の清掃

14 可児店



老人福祉センター可児川苑の施設周りの清掃

飛騨地区

15 高山店



合掌文化館、雪囲い外しや清掃

岐阜新聞
中日新聞に
掲載され
ました

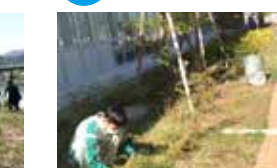
東濃地区

16 多治見店



通常活動場所より範囲を広げ店舗横の河川敷の清掃

17 恵那店



恵那市立恵那病院の草刈り等の環境整備作業

18 土岐店



土岐市浅野緑地公園の清掃

19 中津川店



中津川遊歩道公園内と周辺の清掃と外来植物の駆除

岐阜地区

20 レクサス長良



認知症サポーター養成講座受講

21 BPセンター



尾張パークウェイの清掃

22 物流センター



センターを拠点に2km圏内のゴミ拾い

23 U-Car センター



各務原市木曾川河川敷の清掃

中古車（U-Car）店舗

24 リフエスタ岐阜



岐阜スーパースの選手と共にOKB清流アリーナの清掃

食育事業

25 宇津志ファーム 26 伊自良ファーム



樽見鉄道日当駅の清掃

たくさんのお礼の手紙をいただきました



地域貢献活動

岐阜トヨペットは経営理念で「社会に役立つ活動を通じ、地域に貢献できる企業を目指します」と掲げています。自動車販売店として地域の皆様やお客様と共に、環境保全活動や交通安全教育、地域社会の支援応援等、幅広い分野での活動を積み重ねてきました。これからも地域の方々やお客様から、【ここに岐阜トヨペットがあって良かった】と言っていただける企業を目指し活動していきます。

未来を生きる子どもたちのために

岐阜トヨペット出張授業

岐阜トヨペットでは小中学校の出張授業を FCEV（燃料電池自動車）ミライを使って行っています。今年度は FCEV に加え、ガソリン車、HEV（ハイブリット車）も見てもらい、構造の違い等の説明も行いました。FCEV や HEV の AC 電源が災害時に役立つことも体験してもらいました。今年度は新型コロナウイルスの影響もありましたが、羽島市の小学校、岐阜市の中学校などの5校で計432名が参加してくれました。



子ども食堂への協力

農園で規格外になった作物を活用できないかと2020年から始めた子ども食堂への食材提供や調理ボランティアを、継続して行っています。社内でも子ども食堂への理解が少しずつ広がり、調理ボランティアが2名から5名に増えました。また食育のメンバーも自分たちが無農薬、無化学肥料で栽培した安全な野菜が子どもたちに喜ばれると聞き、作物を育てるモチベーションとなっています。他の調理ボランティアの方から買い物に困っている方を紹介いただくなどの、人と人との繋がりがありました。



いつまでも住みやすくきれいな街づくりに貢献

グリーンキャンペーン

1976年度全国トヨペット店創立20周年を記念し「緑ゆたかにふれあいの街」をテーマにグリーンキャンペーンが開始されました。岐阜トヨペットは毎年取り組み、岐阜県内の公園などにこれまで59品種、5,394本の苗木を贈呈・植樹を行いました。近年では学校や施設で花壇作りをして、植樹をするようにしています。2020年度は新型コロナウイルスの影響で中止になりましたが46回目を迎えた2021年度は岐阜市立特別支援学校に花壇をつくり、苗木を寄贈することができました。また、次年度に使用する苗木を同校の高等部農園芸班が育てたいとの申し出があり、大切に育てていただいています。



警察と協力して交通安全教室

道路を横断中の歩行者が交通事故にあうケースが多発していることから、羽島警察署と連携して、岐南町の新小学一年生を対象に「交通安全教室」を行いました。横断舗装の前では必ず「とまる」、「右・左・右をみる」、安全が確認できるまで「まつ」ことを学んでもらいました。児童や先生からは、楽しく交通ルールを学ぶ貴重な機会になったと感謝の声をいただきました。クルマを販売する企業として、交通事故を少しでも減らす責任を胸に、地域貢献の一環として今後も続けていきたいと思っています。



交通安全教材の贈呈

トヨタ自動車による「幼児向け交通安全教材」を県内トヨタ販売店各社と協力し、幼稚園・保育園・こども園に毎年配布しています。この活動は、「質の高い幼児向け交通安全教材を提供する地域活動」として幼児の交通事故皆無を願い1969年より継続しています。絵本・紙芝居のテーマは「幼児の事故防止」等とし、いずれも園及びご家庭で楽しく学んでいただける教材となっています。



幼児向け交通安全教材

地域を支えるために

岐阜トヨペットマルシェ “HAPPY MARKET”

社会問題になっている地域の買い物に困っている人たちの助けにと、2018年7月より移動販売をはじめて継続しています。地域の社会福祉協議会と協力して販売地域を少しずつ広げ、寝たきりの方や認知症の方の買い物支援も行ようになりました。昨今はお客様のニーズも多様となり、車載冷蔵庫や冷凍庫を複数配置してきめ細かく商品をそろえるようにし、お客様の声にできるだけ応えるようにしています。車載冷蔵庫を動かすのにポータブル電源を複数使いますが、災害時には非常用電源として活用することができます。複数の地域を回るので「地域見守り隊」のステッカーを貼り地域の安全にも貢献するようにしています。



マルシェ担当 金丸さん

献血バスが来ます

毎年本社へ献血バスが来て、31年間で累計1,395名の社員が献血活動を行いました。おもに本社勤務者が献血に協力していますが、今年は近隣の店舗（岐阜東バイパス店・岐南店）にも呼び掛け、数名が献血をしました。

献血ボランティアに協力してくれた人へ聞いてみました「なぜ献血をしようと思ったのですか？」

以前からやってみたくて気になっていたもので、バスが本社に来るなら良い機会と思い来ました。

家族が輸血でお世話になったので、バスが来て献血できるこの機会にやっています。

役に立つならと思って来ました。

自分が元気なので必要な人にわけてあげたいです。正直、粗品も楽しみです。

岐阜東バイパス店の酒向さんは献血中も携帯電話にて仕事の打ち合わせ（？）

他ではなかなかやる機会がないので、バスが来るとやっています。

日頃から何人かのためにできることがないかと考えている中で、献血は気軽にできることなので、毎回やっています。

緑の募金

今年も春と秋の年2回、全社に呼びかけ、店舗や事務所に募金箱を設置し募金活動を行いました。寄せられた募金は、会社からの寄付金（マッチングギフト）と合算し、年間100,000円を岐阜県緑化推進委員会へお渡ししました。



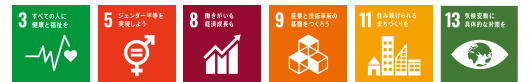
地元スポーツチームの応援

岐阜県内を盛り上げるために、地元のスポーツチームを応援しています。2013年からサッカーチーム「FC岐阜」、2018年からバスケットボールチーム「岐阜スウィーps」のスポンサー活動を行っています。スウィーpsにおいては岐阜トヨペット主催の冠試合が毎年2試合行われています。2020年度に、選手一人が当社社員として入社したこともあり、応援は年々盛り上がっています。また、2019年からは岐阜高山のハンドボールチーム「飛騨高山ブラックブルズ」の応援をしています。



FC岐阜と岐阜スウィーpsにはラッピングしたクルマを貸与し役立ててもらっています。





新型コロナウイルス (COVID-19) の対応



想いをカタチにプロジェクト

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念される中、岐阜トヨペットでは寄付というカタチで地域を応援する「想いをカタチにプロジェクト」を実施しました。2021年1月～3月の間、県内22か所の店舗でお客様に新車・中古車をご購入いただくごとに、1台につき5,000円を寄付金として積み立てました。岐阜県では「ストップ新型コロナ!がんばろう岐阜」を掲げ、感染拡大防止対策や、医療提供体制の充実・強化など、新型コロナウイルス感染症対策推進のため寄付金を受け付けていました。こうした県の取り組みを支援するため、2021年5月岐阜県庁を訪問し、積み立てた寄付金7,140,000円の目録を古田肇知事にお渡ししました。

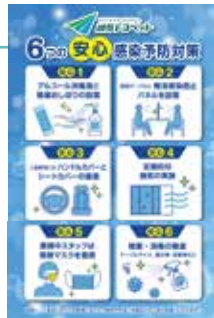
衛生責任者設置

新型コロナウイルスが流行しはじめて間もなく、感染症対策のため、各店舗・事業所にアクリルボードやアルコール消毒を設置しました。また職場内より衛生責任者を選任し、毎日検温・マスク・手指消毒・ドアノブや電話機の消毒など全員で協力し、感染予防に努めています。



6つの安心感染予防対策

お客様に安心してご来店いただくために「6つの安心感染予防対策」を店舗で実施しています。アルコール消毒液、除菌おしぼり、飛沫感染防止パネルの設置、室内の換気や除菌・消毒の徹底、お客様の車のハンドルカバー・シートカバーの装着やスタッフのマスク着用などの基本対策をしっかりと行い感染予防に心がけています。



女性ドライバーの応援

サンフラワーズ 女性ドライバーを応援する女性スタッフチーム

岐阜トヨペットでは女性スタッフによる女性ドライバーのためのサポートプロジェクトチームを結成し、より快適なカーライフのため、新型車情報や試乗体験レポート、お出かけ情報などを発信しています。女性ならではの目線で細かいところまでわかりやすく伝えられています。女性ドライバー、女性社員の活躍にも貢献しています。

【タイヤチェーンの取り付けに挑戦！】



【災害や家事が起きた時にどんな行動をとったらいいの？】



「ぎふのはね」2020年10月号・12月号

岐阜トヨペットでは、従業員が安心して働ける環境となるよう、休暇制度の充実を進めています。職場で気持ちよく働くことができ、また有給休暇を職場で調整してできる限り取得し、自分自身や家族ため、地域活動などの時間に使うこと。その結果として、従業員の誰もがメリハリのある健康的な生活を送れるよう後押ししています。

成果が報われ、やり甲斐のある職場であるために

●研修プログラムの充実

岐阜トヨペットでは職層別に各種研修を実施しています。新入社員には約2か月間、社会人としてのマナーの勉強から職種別の実践的な研修を行います。その後は職層・役割別のスキルアップ研修のほか、ランクに応じた階層別研修、また管理職を展望したNEXT研修、幹部へのステップアップを展望したNEXT2研修を毎年定例化しています。

●人事制度

岐阜トヨペットでは経営理念やビジョンの実現、そして社員一人ひとりの成長のために2018年に人事制度を一新しました。評価制度においては、ランク別に期待する役割に応じて求める行動・望ましい仕事の進め方を明らかにすることで、社員が昇進・昇格に向けて行動変容や成果を発揮できる体制としました。また、日頃から上司が個別に面談を実施し、部下の役割や課題に対しての進捗確認や修正を行うことで、一人ひとりに合った育成を行っています。

従業員が健康で働きやすい職場であるために

●再雇用者の働く場

再雇用者に対して会社は『全社員が嘱託社員（再雇用者）に対して、長きにわたる会社への貢献に感謝と敬意を表すとともに、嘱託社員本人が、やりがいを持って生き生きと働いている』という姿を目指し、2020年4月に再雇用制度を刷新しました。また、再雇用者自身も店舗や本部スタッフのサポートだけでなく食育事業にも従事するなど仲間や地域に貢献しているという自負を持って働いています。その為、ここ数年は定年を迎える社員の約85%が60歳以降も当社で引き続き働いています。

●健康診断・ストレスチェック・健診補助

従業員に対して、毎年1回健康診断を行い、会社は従業員の健康増進を図っており、ほぼ全員が受診しています。他にストレスチェック制度を実施し、従業員自身のストレスへの気づき及びその対処の支援、職場改善を通じて、メンタルヘルス不調を未然に防止します。また、月に一度、産業医による健康相談日があります。岐阜県自動車販売健康保険組合による、疾病予防のための補助があります。

- 3時間人間ドック
(35歳以上の被保険者と被扶養者)
- インフルエンザ予防接種補助
(2020年度は新型コロナウイルスの流行を受け、会社からも上乗せの補助制度を新設しました)
- 乳がん検診補助
(20歳以上の被保険者と被扶養者)



健康診断

だれもが能力を発揮できる職場であるために

●障がい者雇用

展示車やお客様のお車の洗車をはじめ、店舗内や敷地内の掃除などの業務で活躍しています。今後も多様な人材を活かし、その能力を最大限活かし、発揮できる機会を提供していきたいと考えています。現在、障がい者12名の方を雇用しています。法定雇用率 2.3%を上回る3.1%の雇用率となっています。

女性活躍

●サンフラワーズ

女性社員による女性ドライバーのためのサポートプロジェクトチームを結成しています。自ら企画し取材に行くなど、積極的に行動し、女性社員自身のキャリアアップにつながっています。

●外国人雇用

自動車整備士の道に進みたいと考える留学生向けに、外国人雇用を推進しています。留学生は学ぼうという意欲が高く、入社後も積極的に業務に取り組んでいます。また我々も外国人と一緒に仕事をする中で文化や考え方の違いを知り、多くの学びに繋がっています。現在は3名（ネパール・スリランカ出身）のスタッフが働いており今後も継続的に外国人雇用を進めていく予定です。

●アテンダントを創設

女性社員のモチベーションがあがり、よりお客様サービス向上に貢献できるようにアテンダント制度を創りました。アテンダントは、地域のお客様のニーズにお応えし、より快適で頼りになる店づくりに重要な役割を果たしています。

人事企画部 ディレクター 野原さんに女性の活躍について聞きました

●岐阜トヨペットでの女性管理職の現状は？ 今後は？

現在女性管理職は1名ですが、今後は女性のリーダーや管理職を多く輩出したいと考えています。そのために女性社員が今以上に重要な役割を担い、モチベーション高く活躍できるように、キャリアプランをイメージできるようにしたいと思います。アテンダントは、お客様応対や店舗のフロアマネジメントを行う職種ですが、将来はアテンダントを専任で指導・育成するリーダーのポジションも必要になると考えています。

●今回アテンダントマニュアルを作成されたとのことですが、どのような目的で作られましたか？

- ・店舗間でバラバラになりがちな仕事のやり方を統一し、標準化を進めること。
 - ・アテンダントを育成し、模範を示せるリーダーを輩出（選抜）すること
- この2点を目的にプロジェクトを立ち上げメンバーで何度も話し合いマニュアルを作成しました。

●今後アテンダントも含めて、女性スタッフにどのような期待をされていますか？

仕事の枠にとらわれず、あらゆる仕事にチャレンジして成長していただきたい。近い将来、女性の管理職やリーダーが多く誕生することを期待しています。そのために将来のキャリアイメージを持っていたり積極的に活動をしていただきたいと思っています。



野原さん

従業員福利

●ハラスメントは許しません

職場におけるハラスメントは、従業員の個人としての尊厳を不当に傷つける社会的に許されない行為であり、また従業員の能力の有効な発揮を妨げ、会社にとっても職場秩序や業務の遂行を阻害し社会的評価に影響を与える問題です。各事業場にはハラスメント防止ポスターを掲示し、全従業員を対象に相談窓口を設け、いつでも受け付けています。



ハラスメント防止ポスター

●産前産後休暇・育児休暇

産前（6週間）産後（8週間）休暇に加え、母性健康管理のための休暇があり、医師等から休憩に関する措置について指導を受けた従業員から申し出があった場合、休憩や勤務時間に関する措置を、状況に応じて講じます。また、原則として1歳に満たない子を養育する男女労働者は育児休業を取得できます。女性社員の育児休暇取得率は100%です。

安全で快適な職場であるために

●安否確認システム

災害はいつどこで起きるかわかりません。万が一、災害が自宅や外出先等で起きたとき、LINEやメールで5問ほどの簡単な質問に答え安否を確認をするシステムを2020年8月から導入しています。定期的に訓練をし、もしもの時にスムーズな確認ができるようにしています。

●クールビズ・ウォームビズ

地球温暖化対策として、「クールビズ・ウォームビズ」を実施し、快適に過ごすライフスタイルを推奨しています。冷暖房時の室温を制限し、必要なエネルギー使用量を削減することによって、CO₂の発生を削減し地球温暖化の防止に努めます。また、通年ノーネクタイを推奨し快適で働きやすい環境にしています。（レックス店を除く）



●冷暖房完備のサービス工場

2021年4月可児店は移転・新築し「クルマ屋に見えないクルマ屋」としてオープンしました。外観だけでなくショールームや納車ルームは画期的な造りとなっており、サービス工場は冷暖房を完備し、エンジニアが快適に作業できるようになっています。



従業員同士のつながりや、地域とのつながりを大切にしながら働きやすい職場であるために

●介護休暇

従業員のうち必要のある者は会社に申し出て、年度内に要介護状態にある対象家族1名について5日まで（2名以上は10日まで）、1時間単位で介護休暇を取得することができます。または介護のための短時間勤務の適用を受けることができます。

●3日間連続リフレッシュ休暇

年間休日カレンダーを部門別に作成し、どの部門も年間休日日数に「3日間連続リフレッシュ休暇」が含まれます。リフレッシュ休暇は3日間連続で休暇を取得し、心身ともにリフレッシュするための公休日で、2019年に設けられました。他にフレックス休暇や誕生日休暇があります。

●ボランティア休暇

従業員が奉仕活動を通じて、社会に貢献することを支援するために、2019年7月よりボランティア休暇を1年間に7日間取得することができますようになりました。活動時一定のルールに沿って活動支援金を支給し参加者の負担を軽減しています。

- 地域貢献活動
- 社会福祉活動
- 自然・環境保護活動
- 災害地域復興支援活動 など

●E S（従業員満足度）の取り組み

岐阜トヨペットでは、毎年様々なアンケートを通じ、ES 向上の実現を目指して活動を行っています。「自己申告書」では、社員の仕事・職場に対する適応状態や今後のキャリア、プライベートにおける状況や悩みを聴きとり、人事グループで精査したうえで問題解決に向けて社員一人ひとりと向き合っています。「わかりあいアンケート」では、70周年ビジョンに向けて全社員が一丸となり、みんなでよりよい会社を創っていくことを目的として、会社の取り組みに対する意見調査を行っています。皆様からいただいたご意見は会社・人事でしっかりと受け止め、より納得感の高い制度・体制を検討する材料として活用し、更なるモチベーションの向上と組織の活性化へと繋げています。また、社員一人ひとりの取り組みや成果については必ず上司からフィードバック（成果評価は半期に1度／行動評価は年に1度）を行うなど、普段から職場内のコミュニケーションを大切に相互理解を深めています。

●サークル活動

従業員同士のコミュニケーションを図ることを目的とした自主的なサークル活動の支援があります。

- フットサル
 - バスケットボール
 - バレーボール
- （2020年度はコロナウイルス感染症予防のため活動休止）

●通勤手当

通勤状況調査表を提出し通勤手当を通勤距離に応じて受けることができます。特にハイブリッド車は、ガソリン車よりも係数が優遇されており、ハイブリッド車に乗ってほしいという会社の想いを感じられます。

環境レポート2021への第三者意見

新型コロナに揺れ動いた2021年、社会の大きな転換点となる年として記憶されるであろう年の岐阜トヨペット環境レポートにはいくつかの萌芽が感じられる。それは本業の自動車販売とともに進めている食育事業である。国レベルでは、農林水産省からみどりの食料システム戦略が掲げられ、衆目を集めた数値目標として国全体として2050年までに有機農業の面積比率を現状の0.5%程度から25%まで拡大することが報道されている。欧州などでも農場から食卓戦略などが公表されて、まさに国際的な潮流となっている。岐阜トヨペットにおいても、それに呼応するように食育事業の胎動が、着実に実を結びつつあり、4年目となった点にまず注目したい。

食育事業という名称から、有機農業を産品という次元ではなく、次の世代に文化として伝え、継承していくとする意気込みが感じられる。今回、有機農業によるカーボン削減の試算も掲載されていることに象徴されるように、「カーボンだけ」「生き物だけ」といった縦割りの発想を打破し、生物多様性、カーボン、水資源、地域社会の教育といった複数が複合的な課題に同時に対処していこうという、異業種ながらも食育事業で複数の相乗効果を見出していく姿勢は、今後のSDGsの一つのモデルとなろう。今後は、そのような相乗効果も含めて、食育分野での5カ年などのやや長期での数値目標と将来像を報告書の中で示していただきたい。

食以外の領域においても日本社会全体の脱炭素に向けた方向性のなかで、これまで着実に実践をしてきた資源循環やエネルギーの効率化の取り組みや、地域社会での連携と合わせての相乗効果も期待したい。

特にSDGsの文脈であれば環境分野の【目標14：海の豊かさを守ろう】【目標15：陸の豊かさを守ろう】に加え、【目標11：住み続けられるまちづくりを】での独自の展開を一層期待したい。本業の自動車販売から、地域で頼りになる存在になるために店舗、地域活動などを全社員が地道に継続していること。コロナ禍で売上が落ち込んでいる中、販売台数に応じた寄付を岐阜県にした「想いをカタチにプロジェクト」は、コロナ禍の地域密着型の企業の一つのモデルです。今後はPDCAを通した一層の深化を期待したい。

新型コロナは大きな危機ではあったが、危機以前の社会を復元することを目指すのではなく、安心と安全を大切に、地域社会の一員として次世代を育成していく事業として根付いていくことを期待したい。



名古屋大学大学院
環境学研究科
教授

香坂 玲氏

東京大学農学部卒業 ハンガリーの中東欧地域環境センター勤務後、ドイツ・フライブルグ大学の環境森林学部で博士号取得。国連環境計画生物多様性条約事務局（農業・森林担当）に勤務。帰国後、2010年のCOP10支援実行委員会アドバイザーとして活動、金沢大、東北大学教授などを経て現職。日本学術会議連携会員（環境学）。ホームページ <https://kohsaka-lab.jp/> 著書に「地域再生」「生物多様性と私たち」「有機農業で変わる食と暮らし」（岩波書店）



ご意見・ご感想をお聞かせください

「岐阜トヨペット環境レポート2021」をご覧いただき、誠にありがとうございます。

より良いレポート制作をしていくため、どうぞ忌憚ない皆様のご意見、ご感想をお聞かせください。

WEB
アンケート

